

I 先行する神の恵み。

- ①主イエスキリストの恵み（私達の罪の為に十字架、死への勝利の復活）、父なる神の大きな愛、聖霊なる神の親しい交わり、励まし、慰め。
- ②一人ぼっちにされず、互いに祈り合う教会を与えておられる！今日まで守られたのは、神の恵みと祈り支えて下さる方々のおかげ。感謝！

II 教職者は、愛する信徒と求道者の為に、日々祈る。「祈りのしおり」。また、御聖霊に導かれる時、その都度。
※私の場合は、毎朝、神と交わり（御言葉と祈り）、皆さんの為に祈る。夕食後は、妻と共に、皆さんの為に心を合わせ祈る。幸いな時。

祈りは、自分自身を神に近づかせ、祈りが神に届き、神は、その祈りにより一人一人を支えられる。

パウロの祈り：

「父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように」 エペソ1：2。

「信仰に伴う、平安と愛が、父なる神と主イエス・キリストから、兄弟たちにありますように。朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人とともに、恵みがありますように」

エペソ6：23, 24。

「私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝しています。あなたがたすべてのために祈るたびに、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成してくださいと、私は確信しています」 ペリピ1：3－6

III 教職者は、愛する信徒や求道者の為に祈ると同時に、愛する信徒の方々に祈り支えられてはじめて、主の為に働き続ける事ができる。今と同じように、これから来られる働き人の為に心から祈り支えていただきたい。教職者が、信徒の為に祈り、信徒の方が教職者の為に祈る教会は、神の大きな祝福を受ける。悩みや困難、問題のない人はいない。信徒も教職者もお互いに祈り支えられる事を必要としている。弱さが皆ある。

教会では、祈る側と祈ってもら側が決まっていない。皆、お互い、祈って頂く必要がある。

教職者も信徒も求道者も皆、悩み、弱さを持っている。弱さは、マイナスではない。弱さがあるから神を求める。そこには、神に心から頼る祈りが生まれる。「祈って下さい」という祈り合いが生まれる。そこに神は働かれる！

主の為、福音の為に獄中にいたパウロは、心からの祈りの要請をした。

教職者は、信徒や求道者の為に心から祈るが、悪魔の誘惑、霊的な戦いが大きいので、信徒の方々の祈りの支えを必要としている。

悪魔は教職者を特に攻撃する。それは、教職者が倒れると、教会へのダメージが大きいからである。悪魔はそのことを知っている。

1. 教職者は、大切な福音宣教の為に祈って下さいと依頼する必要がある。

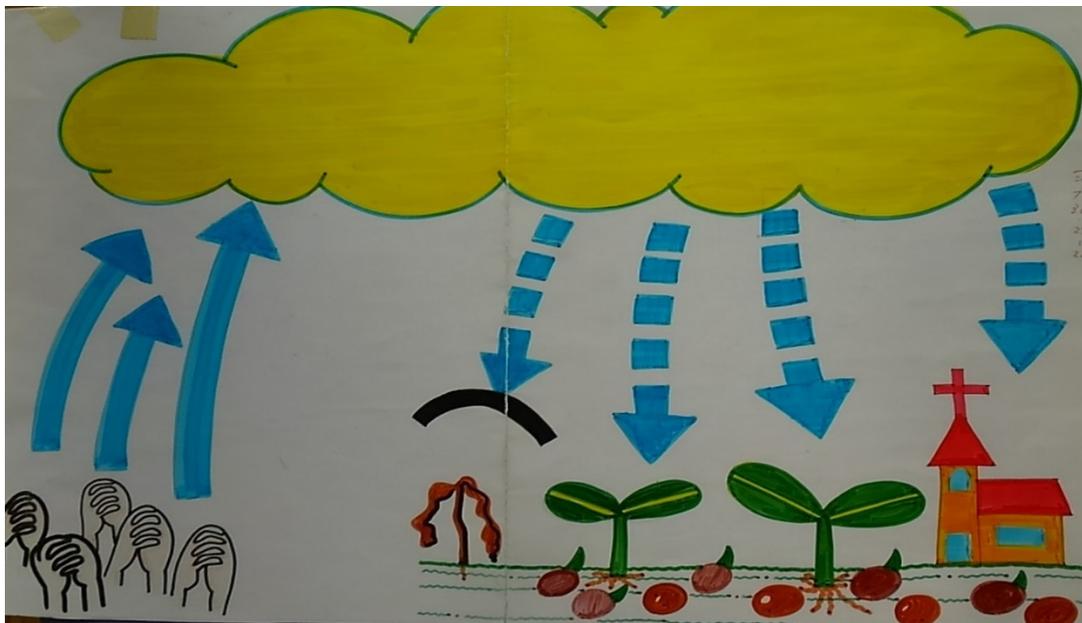
悪魔は、福音の前進を邪魔するから。

「私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義（父なる神が、罪人の私達を愛して、ひとり子のイエス様を、私達の為の救い主としてこの世に遣わされた。主イエスは、私達の罪＝実際の殺人、盗み、不品行、不正だけではなく、心の中の憎しみ、恨み、ねたみ、うそ、ごまかし、悪口、陰口、心の姦淫等を負い、私達の身代わりに十字架で刑罰を受け死なれた。この主イエスを自分の罪の為に死に、三日目によみがえられた救い主、神として信じ心に迎えるなら、神はすべての罪を赦し、永

遠の命を与え救って下さる。永遠に愛し支えて下さる)を大胆に知らせることができるよう、祈ってください」 エペソ6：19。

「私はこの福音のために、鎖につながれていながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを(識別して)大胆に(臆病ではなく)語れるように、祈ってください」 エペソ6：20。

私も、44年、多くの方々に、素晴らしいイエス様の救いを語って来たが、そのことが出来たのは、多くの方々に祈り支えられたからである。※絵を参照。



2. 教職者には、悪魔による霊的な戦いと自分にも弱さがあるため、信徒の方々の祈りの支えを必要としている。

パウロの正直な告白

(この約2千年間、福音の働き人が、多くの迫害、試練を乗り越えて福音を伝え続けたので、私達のもとにも福音、主の救いが届いた事を感謝したい)

＝「労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打たれたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました。…ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあい、労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。ほかにいろいろなことがあります。さらに、日々私に重荷となっている、すべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くなっているときに、私は弱くならないでしょうか。だれかがつまずいていて、私は心が激しく痛まないでしょうか」 Ⅱコリント11：23-33。

教職者は、スーパーマンではない。弱さを持つ人間である。それぞれ違う方々を、一致して教会が歩むように導く事は、簡単ではない。悪魔の誘惑も強く、病になり、牧会を退く方々もある。全能の神の助けが必要である。信徒の方々の祈りの支えを必要としている。

※私は、皆さんが祈り支えて下さる愛を心から感謝している。それなくして今の自分はない。

IV 祈る時、昔も今も本当に神が聞かれる励ましの御言葉。

1. 「彼らの叫びは神に届いた。…神は…ご覧になった。神は彼らをみこころに留められた」

出エジプト2：23-25。

「主は言われた。『わたしは、…彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを確かに知っている』」

2. 「民の叫びがわたしに届き、わたしが自分の民に目を留めたからだ」 Iサム9：16。
「神はこの国の祈りに心を動かされた」 IIサム21：14。
「主が…祈りに心を動かされた」 IIサム24：25。
3. 「あなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます」 マタイ6：6。
「あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます」 マタイ18：19。
「いつでも祈るべきで、失望してはいけない…神は、昼も夜も神に叫び求めている…者たちのためにさばきを行わないで、いつまでも放っておかれることがあるでしょうか」 ルカ18：1、7。
4. 「互いのために祈りなさい。正しい人（完全な人のことではなく、自分の罪を告白し神との関係を回復する人）の祈りは、働くと大きな力があります」 ヤコブ5：16